

景況 レポート

10月分

情報連絡員 80名

自動車販売は4カ月連続で 前年を上回る

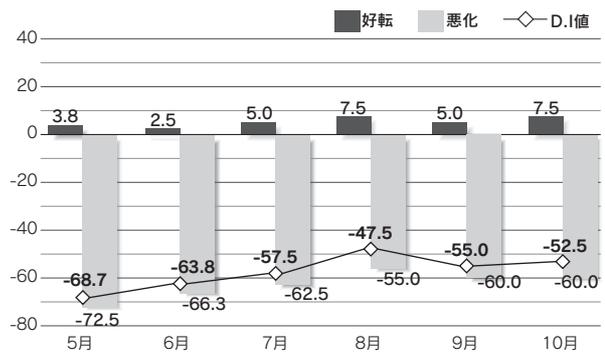
景気概況

10月分の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが7.5%（前月調査5.0%）、「悪化」が60.0%（同60.0%）で、業界全体のDI値は-52.5となり、前月調査と比較し2.5ポイント上回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-53.1で前月調査（-53.1）と同水準となった。また、非製造業全体としてのDI値は-52.1で前月調査（-56.2）に比べ4.1ポイント上回った。

（回答数：80名 回答率：100%）

業界全体好転悪化割合 [前年同月比]



※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員	【天気図の見方】 前年同月比のDI値をもとに作成しています。
製造業							【凡例】 快晴 30以上 晴れ 10以上 30未満 曇り △10以上 10未満 雨 △30超 △10未満 雷雨 △30以上
非製造業							

業界の声

味噌醤油製造	9月分の出荷量は、前年同月比で味噌が109.4%、醤油は102.7%で推移した。
清酒製造	9月分の清酒出荷量は2,191kLで、前年同月比100.3%で推移した。タイプ別では、吟醸酒が前年同月比で108.6%、純米酒が104.8%、本醸造酒が104.6%、レギュラー酒が99.0%という状況になっている。
繊維・同製品	売り場は実需期に入っているが、発注量は依然として増えていない。一部アパレル、ブランドで売れ行き改善の情報もあるが、在庫消化率の向上に留まっており、追加及び新規発注への動きにはつながっていない。
木材・木製品	住宅着工件数の低迷から市場のシェアが大幅に縮小しており、企業の維持・存続が極めて厳しい状況下にある。製材品の流通量が落ち込む中、県外量産工場からの安価な製材品が出回り、価格の落ち込みを招いている。
窯業・土石	4月～10月の出荷数量は前年比83%となった。ここ数年の出荷数量の減少により、1工場当たりの平均従業員数は5年前と比較し13.8人から11.5人に減少、生コン車保有台数は8.5台から7.6台に減少している。
自動車販売	10月の新車販売台数は、登録自動車が2,237台（前年同月比140.1%）、軽自動車が1,763台（同98.4%）で、合計4,000台（同118.0%）であった。登録自動車は4カ月連続して前年同月を上回った。
電機販売	消費者のエコポイントの認識がだんだん高まってきている。テレビのエコポイント活用は大いに期待できるが、単価の安い商品や小型テレビの売れ行きが好調である。
石油製品	ガソリン1ℓ当たり125円で前月比1円の引き上げ、軽油は1ℓ当たり103円で前月比1円の引き上げ、灯油（配達込み）は18ℓ宅配で1,251円で前月比12円の引き上げとなった。依然として価格競争が激しく、利益の確保が難しい状況となっている。
商店街	家電等一部の業種にはやや好転も見られるが、一般消費者の買い控えにより収益が圧迫され、総じて商売は厳しい状況にある。[秋田市] 商店街の通行量はますます少なくなっている。目的買いをする消費者のみとなり、各家庭での今後の成り行きに対する警戒感はかなり高いものと思われる。[大館市]
旅館	景気の低迷による個人消費の落ち込みを懸念したが、地震等の影響が色濃く出た昨年と比較して多少の売上増加が見られた。